

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 5 月 16 日 (2019.5.16)

【公開番号】特開 2019-51187 (P2019-51187A)

【公開日】平成 31 年 4 月 4 日 (2019.4.4)

【年通号数】公開・登録公報 2019-013

【出願番号】特願 2017-178489 (P2017-178489)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

【手続補正書】

【提出日】平成 31 年 3 月 28 日 (2019.3.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
遊技媒体が進入可能な進入有利状態と遊技媒体が進入不能または困難な進入不利状態と
に変化可能な可変始動装置と、

前記可変始動装置の下流側に設けられ、進入有利状態と進入不利状態とに変化可能な所
定可変装置と、

複数の開放パターンのうちのいずれかの開放パターンにより前記可変始動装置を制御可
能な可変始動装置制御手段と、

前記可変始動装置に遊技媒体が進入したことにもとづいて可変表示を実行可能な可変表
示実行手段と、

可変表示の表示結果が所定表示結果となったことにもとづいて、前記所定可変装置を進
入有利状態に変化させる所定状態に制御可能な所定状態制御手段と、

前記所定状態に制御される頻度を高めた特別状態に制御可能な特別状態制御手段と、
所定の発光演出を実行可能な発光手段と、を備え、

前記特別状態制御手段は、前記特別状態として、第 1 特別状態と、該第 1 特別状態とは
有利度合いが異なる第 2 特別状態とに制御可能であり、

前記可変始動装置制御手段は、

前記複数の開放パターンのうち非特定開放パターンよりも前記所定可変装置に遊技媒体
が流下しやすい特定開放パターンにより前記可変始動装置を制御可能であり、

前記第 1 特別状態に制御されている場合と前記第 2 特別状態に制御されている場合とで
、異なる割合で前記特定開放パターンにより前記可変始動装置を制御可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(手段 1) 本発明による遊技機は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態 (例

えば、大当り遊技状態)に制御可能な遊技機であって、遊技媒体(例えば、遊技球)が進入可能な進入有利状態(例えば、開状態)と遊技媒体が進入不能または困難な進入不利状態(例えば、閉状態)とに変化可能な可変始動装置(例えば、可変入賞球装置15)と、可変始動装置の下流側に設けられ、進入有利状態と進入不利状態とに変化可能な所定可変装置(例えば、特殊可変入賞球装置22)と、複数の開放パターンのうちのいずれかの開放パターンにより可変始動装置を制御可能な可変始動装置制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS26Cを実行することにより、図15(1)、(2)に示すように、可変入賞球装置15を5.5秒または0.5秒開放状態に制御する部分)と、可変始動装置に遊技媒体が進入したことにもとづいて可変表示を実行可能な可変表示実行手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS300~S304, S350~S354を実行する部分)と、可変表示の表示結果が所定表示結果(例えば、小当り図柄)となったことにもとづいて、所定可変装置を進入有利状態に変化させる所定状態(例えば、小当り遊技状態)に制御可能な所定状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS358~S360を実行する部分)と、所定状態に制御される頻度を高めた特別状態(例えば、KT状態)に制御可能な特別状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS2208A, S2211A, S2212A, S2209B, S2210B, S2213B, S2214Bを実行する部分)と、所定の発光演出を実行可能な発光手段(例えば、各種のランプ)と、を備え、特別状態制御手段は、特別状態として、第1特別状態(例えば、高確率/第1KT状態)と、該第1特別状態とは有利度合いが異なる第2特別状態(例えば、高確率/第2KT状態)とに制御可能であり、可変始動装置制御手段は、複数の開放パターンのうち非特定開放パターンよりも所定可変装置に遊技媒体が流下しやすい特定開放パターンにより可変始動装置を制御可能であり(例えば、図15(2)に示すように、可変入賞球装置15を0.5秒間だけ開放する)、第1特別状態に制御されている場合と第2特別状態に制御されている場合とで、異なる割合で特定開放パターンにより可変始動装置を制御可能である(例えば、第1KT状態では、図15(1)に示すように、可変入賞球装置15を5.5秒間開放し、第2KT状態では、図15(2)に示すように、可変入賞球装置15を0.5秒間だけ開放する)ことを特徴とする。そのような構成によれば、特別状態における遊技性の単調さを解消することができ、特別状態に制御する場合の遊技の興趣を向上させることができる。